

平成24年1月17日

檜枝岐村公民館報

第173号

# 檜枝岐

Hinoemata

オメーリ

## お参り



村の人口  
男:306人/女:298人 計604人  
世帯数...204世帯  
(平成23年12月末現在)

昭和10年代の前半～中頃に撮影されたものではないかと思われる。社殿は木造茅葺きで、村人は正装し、職人さんの姿も見える。昭和16年12月には太平洋戦争が始まり、暗い厳しい時代に突入する。しかし、鎮守神は、いつの時代もこの村を見守ってくれた。

決して忘れられない2011年が暮れ、特別な思いで迎えた2012年。正月の習わしであるオメーリに、心静かに、感謝と希望の祈りを捧げたい。

# 村の目指すもの

村長 星 光 祥



平成24年の新しい年が始まりました。稀に見る大震災と原発事故、地球温暖化も要因の一つかと思われる大水害に見舞われた昨年でありました。こうしたなか二期目の村政を預からせていただき、政策責任者としての重責を果たすべく精一杯尽くす所存でありますので、これまで同様ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。様々な災害から得た体験を教訓とし、住民の安全を第一にこれからの村政に生かして行かなければならないと考えております。

尾瀬を中心とした観光産業で成り立つ村の経済も、災害や風評被害により大きな打撃を受けており、村側からの尾瀬入込み客数はピーク時の4分の1にまで減少してしまいました。水害の傷跡が残り、原発事故の収束が見えず、風評被害が続く中まさに村の存亡が問われる時であります。

そうした中にありまして水害で被災した国道、村道は災害認定を受け復旧工事が始まり、広沢林道は森林管理署の手によって災害復旧がなされますし、治山事業も関係機関によってなされる予定であります。放射性物質の拡散も村内はごく微量であり、地元産の食物等からも検出されないか検出されてもごく微量で、生活するのに何等影響はございませんし、国も県も復興に伴う様々な支援策も用意してくれております。一度落ち込んだ状況を再び甦らせるのは大変なことでありますが、復興する条件は整っております。村中力を合わせ多くのお客様が訪れ、安全で明るくたのしい檜枝岐をつくって行かなければなりません。それは目の前に迫った課題の克服と共に、基本となる人材の育成や景観の整備など中長期的視野に立った課題も念頭に入れて進める必要があります。

子ども達は辺地にありながら学力も高く、地域学習や花駒座の人たちの協力による歌舞伎体験を通して村人との絆を知り郷土を思う心を育て、将来の帰村につながると期待をしております。

昨秋に村内下手国道脇の林内刈払いを行いまして、景観が大変良くなったと思っております。景観作りは時間のかかるものですが、一歩領内に入ったらか違うぞと思わせるような雰囲気をつくって行きた

いと思っております。

七入地区でカラ松林の中に陸わさびの栽培試験を始め、やまぶどうの苗も仮植えしており、林内でのぜんまいの試験栽培も準備しております。ニンク栽培は種分けするまで行きましたが、特産品となるよう加工方法も含めて勉強し、こういったことをさらに推し進め、地産地消による地域食材の確保、未耕作地や林内の活用で景観の向上を目指します。

日本有数の書家丹治思郷先生より「尾瀬書美術館・思郷館」の建物と作品の寄贈を受けることが出来まして、大変に感謝しているところであります。これでミニ尾瀬公園内に尾瀬写真美術館、武田久吉メモリアルホールと併せ三つの資料館がそろいました。武田久吉メモリアルホールは村に残る尾瀬の写真等資料も展示し尾瀬の資料館に発展させたいと考えています。さらに今年の夏には舞台の下手に「歌舞伎伝承館（仮称）」が完成する予定で、建物内には歴代役者の名場面や花駒座で上演する幕の解説などを展示し、村の歌舞伎が見て分かる資料館を目指しております。林産所上手の展示販売施設も村で使われていた伐採やヘラ杓子関係の道具類、村に成育する木の活用例などを展示し、木の資料館として行きたいと考えています。展示できるような道具類の寄付等協力をお願いします。さらに歴史民俗資料館、尾瀬ブナの森ミュージアムの中身も充実させ、ミニ尾瀬公園と併せ、村内が自然と文化の博物館となって、多くの人達に村の素晴らしさをアピールすることを目指します。

緊急雇用対策による郷土料理研修事業も2年目を向え、新たな人たちが多数受講していただき、ソバ料理を中心とした山人料理の更なる充実、新たなメニューの開発などに期待を寄せるところであります。サポート事業で推進してきました民間の人たちによる新たな村づくり事業も協議会設立に向けて説明会が開催されるなど進展を見せております。

村民が主導し、村が支援する形が地域の活性化には最もふさわしい形態であり、そのような動きがさらに強まることを期待いたします。

# 新年のあいさつ

公民館長 平野 信之



新年あけましておめでとうございます。昨年は日本人にとって忘れられない一年であり、天災と人災が複雑に絡み合い毎日が試練の連続で、人間の見識が試された年となりました。そして今年は、これらの複合災害から一日も早い復旧・復興を目指す胆識が問われる年となるでしょう。檜枝岐村にも厳しい年となりましたが、子ども達は学業にスポーツに元気な姿を見せてくれました。

檜枝岐小・中学校は今年、今まで培ってきた実践を踏まえ、熟議を重ね小中一貫教育を更に推進することとしました。先生方には小・中の9年間を一貫した教育方針に基づき、目標の共有化を図り、学習・生徒指導を組織的に展開し、「一人の人間の成長」という視点から、9年間責任を持って教育活動にあたってもらいます。組織的には、小学校・中学校として2校体制ですが、校長先生は一人で職員室は一緒となります。教育委員会も学校も、小中一貫教育の初年度として胆識が問われる年であるとの覚悟を持って、新年に望みたいと考えております。

最近、新聞や雑誌で「論語」の記事が多く見受けられ、ちょっとしたブームとなっているようで、「論語」の母国である中国でも経済発展のひずみから、論語教育が見直されているとの報道がありました。近代日本資本主義の父とも言われ、生涯で500以上の会社の設立に関わった渋沢栄一氏は「論語と算盤」と言って、常に倫理的な価値観を持ちながら科学的な経営を実践されたそうです。また、日本人で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は、子どもの頃、四書五経などの素読を受け、それが、ものを考える基盤になったと言われていています。二千五百年前の孔子の言葉が、それぞれの時代の人に大きな影響を与え、現実の世の中に活着していることは素晴らしいことだと思います。学校では新学習指導要領の改定にともない、公教育の中で道徳教育の時間が少なくなりましたが、子ども達には何らかの形で「論語」を学ぶ機会を与え、図書の実践も行いたいと考えます。戦後教育を受けた私は「論語」の素読をした覚えはありませんが、戦前までの長い間、日本における道徳

教育は「論語」に触れ、声に出して唱和することが基本だったそうで、それが日本人の規範意識の根底にあり社会全体が安定していたと言われていています。私も言うだけではダメだと思い、早速eネットで一冊購入してみました。その中で、元来ズボラな私の背筋がピンとする言葉があったので紹介します。

ゲン トツ                      コウ ビン  
「君子は言に訥にして、行に敏ならんことを欲す」

君子は慎み深く自分の思ったことはあまり語らず、行動をするときは俊敏に動くようでありたいと常に望んでいる、という意味だそうで、正論を述べ行いの伴わない者の所作を厳しく戒めたそうです。

最後に「去年はアンマーワリー年だった、今年はイェー年にしてえがなあ」後段の檜枝岐、そして日本であってほしいと願って、新年のあいさつとさせていただきます。



連載 ⑦ 檜枝岐村への想い

## 洋菓子店に出ている果物の思い出

橘 長利 氏

洋菓子店に並ぶケーキの上に乗る果物にブルーベリー、キウイフルーツ、ラズベリー、ちょっと見たことありませんか、とても高級果物として使用されています。このブルーベリー（タケグミ）、キウイフルーツ（コクワ）、ラズベリー（バライチゴ）を最初に食べたときは、えっと思い、味が似ているーと思いました。私はこれを食べるたび大自然に包まれた檜枝岐村の子供時代を懐かしく思い出します。この3種の果物は、最初は外国から輸入されて、現在日本で栽培され苗木も園芸店で販売しており、種類も大変多くあります。この3種の原種が檜枝岐村にあり、皆さん食べている、タケグミ、コクワ、バライチゴです。完全無肥料、無農薬の自然の恵みの宝物であり、何もない時代の唯一の果物として大変美味しく食べさせていただきました。バライチゴは同じ位の大きさで、タケグミ、コクワとも形は極端に小さいですが、木の葉、蔓は同じようになっています。ちなみに長野県の家内の実家はブルーベ

リー農園を開いております。

この懐かしい思い出をちょっと綴ってみます。

昨年お盆に帰郷した際、帝釈山、田代山で50数年ぶりにあの懐かしいタケグミを食べることができました。それは甘酸っぱい何とも言えない味で、少年時代を懐かしく思い出し感激いたしました。まさかこの山で食べられるとは思ってもみませんでした。帝釈山では低木に、田代山では会津駒ヶ岳と同様田代の外れのハイ松に近い所で、所どころに生えておりました。この会津駒ヶ岳はタケグミを初めて見て食べた山であり、もっと沢山一面に生えておりました。2級先輩の故星徳善氏と兄貴（喜代一）と食べにいったことが鮮明に記憶に残っております。

この帝釈山・田代山は車道が近年整備され馬坂登山口より簡単に登ることが出来るようになりました。この山は懐かしく昭和42年頃東京の山仲間と湯の花温泉より田代山、帝釈山、台倉高山、引馬峠（泊）孫兵衛山、七兵衛田代、大丈田代、矢櫃平、七入り



昭和28年頃

後列左から 屹、利弘、長昭、光、欣一、侑子、なつのえ、マリ子、長利  
前列左から 吉子、民子、竹千代、ナカ子、アツ子、鈴木蘭子先生、月子

と縦走したことがあり思い出の山です。

小、中学と出作り小屋（キリンテ）よりエジッコを背負い3km通いました。

この通学路が道草を喰いながら遊びの道でもあり、また社会体験の道でもありました。特に赤水橋より下流では水害のたびに道路が遮断され、低学年のころはよく村民の皆様におぶってもらい通学し、また朝の集団登校等は現在の助け合い、思い合い、忍耐等多くのことを学び、人生の基に成っております。楽しい良き少年時代を過ごすことが出来ましたことを感謝申し上げます。

春はうど（山菜）などを採って帰り親孝行、夏は中土合公園上流の砂防ダムの岩場（道路側）カジッカ獲り、次から次と手で掴み獲りカジッカはバケツ半分位にはすぐなりました。またキリンテの川は遊び場で、流れのゆるく浅い淵にも多くカジッカがいて、下流より上流に向かって獲って行き、獲り損ねたカジッカは保護色なので色と場所を変え知恵比べをしたものです。遊び疲れた後の果物はバライチゴでした、とても甘く、種がちょっと舌にあたり美味しく、来年のために場所を覚えておかなければなりませんでした。

秋、そばの収穫時にはあけぶ（アケビ）が最盛期になり、あそこのあけぶがンメー、こっちのあけぶがもっとンメーと毎年場所を覚えたものでした。山が紅葉し葉が落ち始めると、湯出の沢の下（大津岐に流す水門のダム）の川沿いにコクワの木があり、蔓の絡まった木に登り採っては食べ、採っては食べ舌の痛くなるまで食べたものです。何もない時代でしたので本当に美味しかった。このように檜枝岐で自然の恵みを受けながら、自然児に育ったことを感謝すると共に誇りに思っております。

話は変わりますが、1月に父喜一郎、後を追うように5月には母ワカ子が天国に旅立ちました。生前はデイサービスの皆様、村民の皆様に大変お世話になり、また御指導、御鞭撻を賜りましたこと感謝申し上げます。父の告別式の日には特に寒く火葬場に向かう沿道には多くの方々にお集まり、見送って戴き



教室に机を並べて舞台を作り学芸会の記念写真

後列左から 平野民子先生、工昭子、ケイ子

前列左から 長利、民子、光、アツ子、利弘、マリ子

ましたこと、この人情深い村民の皆様には頭が下がり、生涯忘れることの出来ない感謝の気持ちでいっぱいです。このような人情あふれる檜枝岐村に生まれ、生涯を全うしたことを誇りに思い、二人は天国で楽しく話し合っていることでしょうか。本当に有難う御座いました。

父喜一郎との思い出をひとつ書かせていただきます。昭和39年10月御池より沼山峠までの車道がない時代に、バスに乗りブナ平で下車して、途中まで杓子小屋道を二人で歩き重兵衛池に行きました。紅葉の真っ盛りで手前には深い沼があり、初冠雪の燧ヶ岳が湖面に映り、奥には沼と大きな湿原が広がり、それは表現できないような素晴らしい風景でした。この素晴らしい自然の感動を多くの人々に紹介できないだろうかと考え、尾瀬、檜枝岐の紹介をする切っ掛けとなりました。昭和40年6月号に山と溪谷社発行月刊誌「ハイカー」にこの重兵衛池を投稿し掲載されました。全国の書店に並び愛読されると思うと胸がいっぱいになりました。それから山仲間「山旅会」に入会し千田岩男会長のもとに山と溪谷社発行アルパインガイド「尾瀬・檜枝岐」を発行するにあたり山旅会の仲間と福島県の入山コースは勿論、新潟県の枝折峠から、群馬県の湯の小屋から、栃木県の八丁の湯からすべての入山コースを丹念に歩き調べ、正しいコースガイドを書き昭和44年7月に発行

しました。タイトルの最初は尾瀬・日光と言うことでしたが、千田会長の要望で檜枝岐に替えてもらい「尾瀬・檜枝岐」が誕生したと言うエピソードがありました。これらのことをきっかけに尾瀬、檜枝岐、会津の山々等原稿の依頼を受けるようになり、多くの本に掲載させていただき、少しは檜枝岐出身者としてのメッセンジャーの役割を果たせたのではないかと考えております。

今の東日本大震災による福島原発事故の風評被害は目に余り、福島と言うだけで、ああ福島、買わない、行かない、本当に困ったものです。本当に村民の皆様が困っておられることを思うと心が痛み、何をお

手伝いすればよいかかわからず、ただただ思考にふけかえるばかりです。一日も早く元の元気な檜枝岐村になることを願わずにはおられません。

最後に私は檜枝岐村で育ち、多くの山を歩き、自然の厳しさ、風になびく優しさを学びました。特に会津駒ヶ岳の積雪にも負けない榎松、燧ヶ岳の風雪に耐えるハイ松、屏風岩の風になびき風情あふれる松、ブナ平の優しく繊細なもみじ等、自然の厳しさ、優雅さを盆器に表現する、さつき盆栽を一生の友として楽しみ、全国展示会に入賞できるような作品を作ることを目標に、常に自然の美しい檜枝岐村に思いを馳せながら、四季折々の盆栽を楽しんでおります。



昭和35年卒業同級会 (H17.4.11)

後列左から 長利、利弘、東、マリ子、アツ子、長昭、嘉寛、  
前列左から 東洋治、ツヨ子、ヨリ子、光、吉子、ナカ子、侑子

〈プロフィール〉

- ◇1945年 3月 (昭和20年 3月)檜枝岐村に生まれる
- ◇1964年 3月 県立田島高等学校卒業
- ◇1966年 3月 日本経理専門学校卒業
- ◇1968年 3月 富士短期大学卒業
- ◇1964年 6月 ジャパンライン株式会社入社
- ◇1995年 1月 我孫子さつき会会長
- ◇1999年 7月 会社合併により関係会社移籍
- ◇2001年 4月 我孫子市文化連盟常任理事
- ◇2010年 4月 我孫子市文化連盟監査役

今号は橘長利さんにご寄稿いただきました。「遊びの道」であり「社会体験の道」と表現されたキリンテからの通学路は、村が貧しかった頃の「出作りの道」です。山の恵みへの感謝、村人への感謝、貧しい時期を過ごした経験は、現代社会では得ることができないかもしれません。ご寄稿ありがとうございました。

(教育委員会 平野 勝)

## 元檜枝岐村議会議員 平野和利氏 平成23年秋の叙勲受章

平成23年11月3日付けをもって「旭日双光章」が授与されました。

平野和利氏は、長年の議会議員として、また消防団長としての功績が認められ、旭日双光章の受章となりました。

誠におめでとうございます。(総務課 星 瑠美)



## 檜枝岐村商工会長 星俊次氏 中小企業庁長官表彰受章

中小企業庁長官表彰が11月24日、第51回商工会全国大会において行われ、檜枝岐村商工会長の星俊次氏が、役員功労者として表彰されました。

星俊次氏は村商工会役員として長年に渡り尽力され、現在も商工会長として村観光振興に力を注がれております。誠におめでとうございます。

(商工会 加藤和紀)



## ご寄付をいただきました

東武トラベル(株)様から福島県自然公園清掃協議会尾瀬支部へご寄付がありました。授与式は12月8日に行われ、営業統括部長の山口様から支部長である檜枝岐村長に、寄付金54,800円が授与されました。寄付金は尾瀬の自然保護活動にあてられます。誠にありがとうございました。

(教育委員会 平野 勝)



## スキー場オープン

尾瀬檜枝岐温泉スキー場が、12月17日にオープンいたしました。営業日は土日祝日の8:30～16:30までとなり、村民の方はリフト代・レンタル代が無料となっております。

日頃運動不足の方、家族一緒の時間を過ごしたい方、皆さん、身近なスキー場で楽しい汗を流しましょう。全てが無料ですので、ちょっとした合間に来て楽しむこともできます。子どもたちに冬は冬の遊びを体験させてあげましょう!

2月からは村民スキーデーも予定されております。詳しくはスキー場(TEL 75-2351)までお問い合わせください。

(観光施設事業所 星 勝城)



# 平成23年 オコジョクラブ活動報告

村民の皆様にはオコジョクラブ活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。今年度は予定していた大熊町との交流事業や製菓工場見学が震災の影響により実施できませんでした。

また、7月末の会津地方豪雨災害により仙台へのバスツアーも中止となってしまいました。楽しみにしていた子ども達も多く、中止となったことは大変残念ですが、原発事故の影響も少なく、いつもの年と変わりなく屋外で元気に活動できた檜枝岐の子ども達は幸せだと思います。これまでに実施したオコジョクラブ活動について報告します。  
 (教育委員会 平野 勝)

## ●夏休み川遊び 7/26

檜枝岐村漁業協同組合様に協賛いただき、岩魚のつかみ取りや稚魚の放流を実施しました。



## ●フットサル教室 8/20・21 11/5・6

昨年に引き続き、Alla vita sportsの皆様にご指導いただき、4日間開催しました。



## ●異世代間交流事業グラウンドゴルフ大会 10/22

村老人クラブ連合会と共催で実施しました。参加された老人クラブ員の皆様、ありがとうございました。



## ●親子クッキング 12/17

檜枝岐村食生活改善推進委員会の皆さんと栄養士の折原あかねさんに指導していただきました。



# 少子化対策報奨金交付式

村では、人口増加と少子化防止対策に寄与するため、少子化対策報奨金を支給しております。

去る、9月10日、平野大地・愛夫妻の結婚披露宴が会津若松市東山温泉御宿東鳳で行われ、その会場にて星光祥村長から結婚祝金が手渡されました。

12月16日には、役場村長室において少子化対策報奨金交付式が行われ、星弘樹・小百合夫妻の第2子、そよかちゃんの誕生と、星孝和・三和夫妻の第1子、祐花(ゆうか)ちゃんの誕生を祝い、出産祝金及び子育て支援金が手渡されました。さらに、星 勝城・みちる夫妻の結婚を祝い、結婚祝金が贈られました。

ご結婚された2組の末永いお幸せと、そよかちゃん、祐花ちゃんの健やかなご成長を心よりお祈り申し上げます。おめでとうございます。

(住民課 折原あかね)



## 入湯税について

入湯税は、環境衛生施設、観光施設等の整備、鉱泉源の保護管理等に要する経費に充て、鉱泉(温泉)浴場所在市町村特有の財政需要に対応するために設けられている目的税です。

平成22年度は入湯客数72,404人で、10,861千円の税収となり、対前年比で95.8%(3,195人、479千円の減収)となりました。充当状況は次のとおりです。

・温泉配湯所維持管理経費	1,300千円
・公衆浴場施設整備償還金	4,997千円
・温泉配湯所整備償還金	4,564千円

平成23年度以降も温泉配湯所維持管理経費、公衆浴場施設整備償還金、温泉配湯所整備償還金等に充当していく予定です。

(総務課 平野暁史)

## 平成24年 経済センサス活動 調査について

2月1日を調査基準日に民宿・旅館・山小屋等を対象として経済センサス活動調査が実施されます。この調査は全国規模での事業所及び企業の経済活動の状況を明らかにすることを目的としています。

調査員(商工会職員)がお伺いしますので、ご協力をお願いします。

(総務課 平野 邦彰)

☆お誕生おめでとうございます



◎平野 瑠己(るき) 男 正和・容子夫妻

☆ご結婚おめでとうございます

◎星 勝城・みちる (旧姓 五十嵐)

●お悔やみ申し上げます

星 コテフ 101歳 (世帯主 星 幸芳)

橘 光弘 69歳 (世帯主 橘 みね子)

星 弥次郎 83歳 (世帯主 星 キヨノ)

星 幸一 68歳 (世帯主 星 タニ子)

※御家族の承諾を得て10/1~11/30届出分を掲載しております。

# 第31回全国中学生人権作文コンテスト優秀作品

第31回全国中学生人権作文コンテストにおいて、福島地方法務局若松支局長表彰を受けた、檜枝岐中学校3年、星桃子さんの作文を掲載します。

## ”当たり前“の大切さ

檜枝岐中学校 3年 星 桃子

3月11日。東日本大震災が起きた。あまり地震が起きない檜枝岐村でさえ、長い揺れが何回か起きた。地震が起きた時、私は友達の家に行った。すぐに外に出た。少し揺れがおさまってから、テレビを見た。すさまじかった。怖くなって見られなくなった。それからずっとテレビでは地震のことばかり。津波で家をなくした人の話を聞いた時は、胸が張り裂けそうになった。自分はこんなに幸せでいいのかと自分に問いかけた。檜枝岐村に生まれてこれで本当によかったと思う。

今回の震災で多くの人が亡くなった。そして多くの人権が奪われた。毎日当たり前に行っていたことが、プツンと急にできなくなったのだ。荒れ狂う海に向かって「お母さーん！お母さーん！」と呼んでいる女の子の姿をテレビで見て、5年前の自分を思い出した。

2006年8月15日。夏休み中で、いつものように6時半からラジオ体操をした。それから夏休みということもあり、もう一度布団に入った。すると、「桃子！早く起きて！」とおばさんの声があった。とても急いだ様子で部屋に来たので、「何かおかしいな。」と思いながら、言われるがままに弟と車に乗り込んだ。祖父の運転だった。「どこに行くの。」と、弟。険しい顔で何も言わない祖父母。不穏な空気が漂っていた。コンビニでおにぎりを買って、朝ご飯代わりに食べた。私はハッとした。「ひょっとしてお母さんに何かあったの。」怖かった。震えが止まらなかった。まだ何も確信していないのに涙がこぼれた。それにつられて、祖母と弟も泣いた。

午前8時半過ぎ。母が入院している病院に到着した。急いで車から降り、祖母に手を引かれてついていくと、父が椅子に座っていた。頭を

抱えて、小刻みに震えている父を見てとても驚いた。あんな父を見るのは初めてだったからだ。看護師さんに、「お母さんに会う。」と聞かれ、弟と元気よく返事をして、病室へ。入った瞬間唾然とした。ベッドに寝ていたのは、あまりにも変わり果てた姿の母だった。近くに寄って泣き叫んだ。「お母さーん。お母さーん。返事してよ。」と。弟もそんなに泣いたら声が枯れてしまうのではないかというくらい、泣いていた。母は息をしていなかった。母は死んだのだ。そこからは頭が真っ白で、あまりよく覚えていない。一つだけ覚えているのは、その日の夜、「親子三人で力を合わせて頑張ろう。」と誓い合ったことだけだ。

次の日から始まった母のいない生活は、とても大変だった。学校のことは全て母に任せていたので、「こんなことなら、もっと教わっておけばよかった。」と言う父の独り言が私に突き刺さった。「私がお母さんよりしっかりしなきゃ。」と毎日のように自分に言い聞かせた。母方の祖父母はそんなに若くないので、なるべく気を遣わせないように心がけた。「自分のことは自分でやる。」をモットーにして、自分のことで家族に迷惑をかけないように頑張った。慣れてくると、弟の面倒も見られるようになった。

母が一人だけ家からいなくなっただけで、こんなにも辛くて、苦しいことだとは思わなかった。母が死ぬまで、テレビや新聞で誰かが亡くなったことを知っても、そんなに気には留めなかったが、母が死んでからは、誰かが亡くなったという情報を聞く度に、涙が出そうになるくらい苦しくなった。だから、今回の震災でたくさんの方が亡くなって、とても苦しかった。特に、家族を亡くした遺族の人たちの気持ちは、痛いほど伝わってきた。線香をあげに来てくれたある人に、私はこう言われた。「いい。朝起きて、

ご飯を食べて、学校へ行って、友達と遊んで、家に帰って来て寝る。このいつも当たり前のことを、自分らしく行っていけば大丈夫だから。安心して。何も特別なことはしなくていいんだよ。」と。この言葉を聞いたとき、とても肩の荷が軽くなった気がした。

「頑張んなきゃ」とか「自分がやらなきゃ」と思いすぎていたのかもしれない。だから、被害の遭われた方々に、自分らしく、毎日、当たり前前に繰り返してきたことを素直に行って、頑張りすぎないように生活して行ってほしいと願う。「辛い」「苦しい」「悲しい」そんなことは誰だって分かっている。マイナスなイメージを捨てて、前向きに過ごして行ってほしい。おそらく、天国にいる私の母も、私たち家族にそう願っていると思う。時には、一人でどうしようもならない時が来るかもしれない。その時は、お互いに励まし合って、尊重し合って、一つ一つ壁を乗

り越えていけばいいと思う。

今回の震災で、当たり前のことを今まで通りにできる喜びを改めて実感した。ご飯が食べられて当たり前、家族がいて当たり前といった、当たり前の大切さを、多くの人々に分かってもらいたいと強く思った。

11月中旬の夕方、人権擁護委員の富子先生が、不在だった私の机の上に「全国人権作文コンテスト入選作品」を置いていかれた。紙面に目を通すと目頭が熱くなり、PC画面で顔を隠しティッシュを使った。桃子さんの作文は、涙なくして読むことが出来なかった。彼女の母（文子さん）は、以前役場の同僚でよく気のきく優しい人だった。この作文は、村民の方々に是非読んでもらいたいとおもい、本人とお父さんのご了解を得て掲載させていただきました。（公民館長）

## 三味線・刀剣を 寄贈いただきました

村の貴重な文化財として、三味線3台、刀剣(脇差)1振を寄贈していただきました。

- ・元花駒座々長 故星保忠氏が使用した三味線2台  
星昭仁氏寄贈
- ・元花駒座々長 故平野理氏が使用した三味線1台  
平野正広氏寄贈
- ・故平野眞氏が所蔵した刀剣（脇差）  
平野チエ子さん寄贈（神奈川県在住）

故平野理氏が使用した三味線（右写真 最上部）は、原型を残すように修繕し、故星保忠氏が使用した三味線2台は、使用できるよう修繕を行い教育委員会で保管しております。

故平野眞氏が所蔵した刀剣（脇差）は村に古来からあるもので、村歴史民俗資料館に展示しておりますので是非ご覧ください。

（教育委員会 平野 勝）



## 婦人消防隊活動服 可搬ポンプ整備

平成23年度コミュニティ助成事業の助成を受け、婦人消防隊員の活動服及び可搬ポンプを整備しました。

活動服は訓練時の動きやすさと安全性を高め、可搬ポンプは初期消火による火災被害の軽減を図ることが目的です。

今後の婦人消防隊の活躍に期待します。  
※コミュニティ助成事業は宝くじの社会貢献広報事業です。（総務課 平野 暁史）



# 平成23年度事業報告について(産業建設課)

今年度事業につきまして、次の事業が無事完了しましたのでご報告いたします。

## ○村道大畑線舗装整備事業

上大畑地区の舗装が傷んでいたため、舗装の打換えを行いました。舗装のひび割れや凹凸がなくなり車が走行しやすくなりました。

(産業建設課 星 友和)



## ○村道駒ヶ岳線 落石防護対策事業

落石による事故防止のため道路脇斜面に金網を設置しました。駒ヶ岳登山の際は安心して通行できるようになりました。

(産業建設課 星 友和)



## ○観光駐車場整備事業

工事中は大変ご迷惑をおかけいたしました。おかげさまで無事、駐車場が完成しましたので、役場や学校等に車でお越しの際は、是非ご利用ください。

(産業建設課 星 友和)



## ○林床栽培

林内の特性を活かし、七入のカラマツ林に葉ワサビの試験栽培を行っております。今後、順調にカブが増えていけば、皆様に苗を配布し利用していただきたいと考えております。

(産業建設課 星 弘樹)



## ○景観整備事業

本村を訪れる多くの皆様に、きれいに整備された景観及び森林環境を提供すると共に、本来あるべき森林の姿への再生を結び付けることを目的に、村境から滝沢橋までの道路沿線の森林整備を行いました。引続き、来年度も実施する予定です。(産業建設課 星 弘樹)

# 社協だより

社会福祉法人 檜枝岐村社会福祉協議会

福祉活動専門員 平野陽子

## ●完成しました！

皆様にご迷惑をお掛けしておりました、医療福祉センターの改修工事が完了しました。来年度の新規事業へ向けて、着々と準備が進んでおります。



お年寄りの自立を支援するための浴室 車いすでも使いやすい洗面台



ゆったり広々トイレ



1人部屋A



1人部屋B



2人部屋

## ●檜枝岐村に、新しい介護のかたちが誕生予定！～小規模多機能型居宅介護事業所～

- ・日中の「通い」を中心に、「宿泊」、「訪問」サービスを、要介護高齢者やご家族の必要に応じて利用できます。
- ・「24時間365日」の暮らしを「切れ目なく」お手伝いする新しい介護サービスです。

たとえば？

- 他町村の施設に入所したくない。住み慣れた家での生活を続けたい
- お風呂だけとか、午前中だけとか、柔軟なつかい方をしたい
- 日曜日や祭日も、デイサービスやショートステイを利用したい
- 急なショートステイにも対応してほしい



### 通い

デイサービスは、365日年中無休

ご利用者様、ご家族の都合に合わせて、基本の時間以外にも柔軟な対応が可能です。土日でも、年末年始だってOK。

### 訪問

ホームヘルパーは、24時間対応いたします

ご利用者様のご都合や状況に合わせてご自宅へ伺い、安否確認や身の回りのお手伝いをいたします。緊急時には夜中でも大丈夫。

### 宿泊

ショートステイは、急なご利用も可能です

ご家族の都合などで、急なご利用も可能です。必要であれば、連続して長期的に宿泊することもできます。

『住み慣れた、「村」での生活を続けるために』スタッフ一同、開設へ向けてただ今準備中です。

## ●寒くても、利用者さんはみんな元気です！

今年のクリスマスツリーはそれぞれが好きな色を塗ったクリスマスツリーを合わせて作成しました。同じ絵でも、配色や塗り方でまるで違う絵のよう。塗り絵は、個性がキラリと光って、おもしろいのです。



色とりどりの、個性的なツリー達



ぬり絵は、脳を活性化させるのです！

# 第31回全国中学生人権作文コンテスト

## 若松協議会表彰を檜枝岐中学校の生徒4名が受賞しました。

第31回全国中学生人権作文コンテスト若松協議会表彰にて、中学3年生の星桃子さんが若松支局長賞、同じく3年生の星広幸くんが奨励賞、中学2年生の平野まどかさんと中学1年生の星光世さんが佳作に選ばれました。表彰状の伝達式が12月19日に檜枝岐中学校において行われ、福島地方法務局若松支局長より表彰状が贈られました。

また、檜枝岐中学校では同コンテストに毎年応募しており、その取組みについても高く評価され、法

務省人権擁護局長・全国人権擁護委員連合会長感謝状も贈られました。

このコンテストは、中学生の皆さんが、日常の家庭生活や学校生活等の中で得た体験に基づく作文を書くことによって、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身につけることを目的として、昭和56年度から実施されています。(住民課 森 美沙)



# 平成23年度 児童館防火パレード

秋の火災予防運動実施に先駆け、11月9日児童館の子ども達による防火パレードが児童館から役場まで行われました。

パレード終了後は児童によるアトラクションも行われ、多くの観覧者で賑わいました。

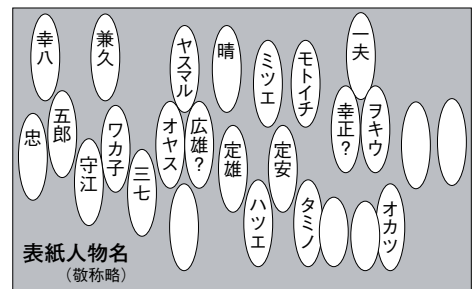
これからの季節、火気の使用が増えます。一人ひとり火災予防に努めましょう。(総務課 平野暁史)



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年も公民館報は年6回の発行を予定しております。辰年だけに「龍頭蛇尾」にならないよう努めたいと思います。

今号の表紙どうですか？旧伊南村恥風の故平野敏長氏が撮影した写真です。趣のある鎮守様の懐かしい写真をとくにご覧ください。皆さんは写っている人が誰だか興味があると思いますので分かる範囲でお知らせします。間違っているかもしれません、その時にご勘弁願います。今年も今まで以上にスタッフ一同頑張りますので、宜しくお願いします。(教育委員会 平野 勝)



編集・発行:檜枝岐村公民館  
印刷:三条印刷株式会社

みんなの尾瀬をみんなでまもる  
この公民館報は、尾瀬の木道をリサイクルした再生紙を使用しています。

